



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第14号（最終）

令和元年11月8日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部



糖度高く、着色良く、ふじの仕上がり良好!

ふじの収穫は11月15日頃まで!!

黒星病の被害落葉処理の徹底を!!!

野ネズミ・雪害対策は万全に!!!!

I 概 要

無袋ふじは、糖度が高く、着色も良く、仕上がりが良好である。

無袋ふじの収穫は、11月15日頃までに終わる。

収穫時に、果実に泥が付着しないように注意するなど果実疫病対策に万全を期す。

ビターピットやキズ果等が見られるので、出荷先の選果基準に基づき丁寧に分別して出荷する。

黒星病の被害落葉は来年の感染源となるので、積雪前又は消雪後に集めて処分する。

野ネズミ対策、雪害対策など冬越しの作業を手落ちなく進める。

マメコバチの増殖を図るため、新しい巣筒の準備やコナダニの駆除など冬場の飼養管理を適切に行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大・果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

11月1日現在、ふじの果実肥大（横径）は、地域や園地によってバラツキがあるものの、概ね平年並みから平年を上回っている。

果実肥大（11月1日現在、横径：cm、平年比：%）

地域	年	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	8.7
	平年	8.9
	前年	9.2
	平年比	98
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	9.3
	平年	8.8
	前年	8.6
	平年比	106
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本年	9.3
	平年	8.8
	前年	9.4
	平年比	106
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	8.9
	平年	8.6
	前年	9.0
	平年比	103

(2) 果実熟度

11月6日現在、無袋ふじは、平年値と比較して、糖度、酸度、ヨード反応及び着色指数は高く、蜜果率は同程度、蜜程度はやや低く、硬度は低い。

ふじ（無袋）の熟度の進み

(11月6日調査)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜入り 程度
(りんご研)	本年	338	3.9	13.5	16.2	0.444	2.6	100	2.0
	平年	352	3.6	15.1	14.4	0.392	1.7	99	2.3
	前年	355	3.8	14.1	13.7	0.281	1.4	100	2.0

平年：1996～2015年までの20年平均

注) 1 着色指数：0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード反応：0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 蜜入り程度：0～4 大きい数値ほど蜜発生大

(3) 作業の進み (11月6日現在)

王林及び有袋ふじの収穫はほぼ終了、無袋ふじの収穫が行われている。

2 作業の重点

(1) 無袋ふじの収穫

収穫は、11月15日頃までに終える。

ふじ(無袋)の収穫時の標準指標

食味	糖度	ヨード反応	蜜入り程度	硬度
4以上	13.5%以上	2以下	2以上	13~16 ^ホ ント [°]

(2) 山選果の徹底

ビターピットやキズ果等が見られるので、出荷先の選果基準に基づき丁寧に分別して出荷する。

(3) 果実疫病(おそ疫病)対策

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意し、落果や収穫の際に落とした果実は、収穫果に混入させない。また、収穫果は、長く野積みしない。

(4) 黒星病対策

被害落葉は翌年の伝染源となるので、積雪前又は消雪後にかき集めて処分する。

(5) 腐らん病対策

残ったつるから感染することが多いので、つる折れ、つる抜けしないよう丁寧に収穫する。つるが果台に残った場合は、取り除く。

発生が多い園地では、ふじの収穫後できるだけ早い時期に、ベフラン液剤25の1,000倍又はトップジンM水和剤1,000倍を散布する。

(6) モモシンクイガ被害果の除去

モモシンクイガによる被害果を流通させないために、収穫した果実は、選果時に徹底して選別する。被害果は見つけ次第、7日以上の水漬けなど適切に処置をする。

(7) 風害防止対策

強風被害に備え、防風網やわい性台樹の結束などを再度点検し、補強や取り替えを行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は、倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(8) 果実の樹上凍結対策

気温がマイナス3度を下回ると果心部まで凍結する可能性がある。

ア 樹上凍結した果実は、樹上で自然解凍した後に速やかに収穫する。

イ 凍結した果実は凍結していない果実と区別して流通させる。

(9) 野ネズミ対策

効果の高い時期は積雪前と融雪後である。

野ネズミの食害防止法には、回避、忌避などの野ネズミを殺さないで被害を避ける「間接的方法」と、殺そ剤など使って野ネズミの密度を減らす「直接的方法」がある。基本的には両者を併用した対策が望ましい。

苗木や若木、わい性台樹は、野ネズミの被害を特に受けやすいので防止対策を徹底する。

忌避剤及び殺そ剤の適用場所などについては、使用する薬剤の使用基準を遵守する。

ア 被害の回避

(ア) 園地を清掃し、果実など餌となるものを排除する。

(イ) 幹の周囲を耕起し、野ネズミの巣を壊す又は巣作りを防ぐ。

(ウ) 幹に地上1 mくらいの高さまで金網や合成樹脂のプロテクターなど防護用の被覆資材を巻く。

(エ) 忌避剤による防止

⑦ 樹幹への処理 (アンレス、キヒゲン)

⑧ 樹冠下への処理 (フジワン粒剤)

(オ) 雪の踏み固め及び枝の掘上げ

2月以降、数回幹の回りの雪を踏み固める。雪中に埋まった枝は掘上げておく。

イ 駆除

(ア) ワナなどの利用

金網製の生け捕りワナ、バネの力で捕らえる弾きワナ、粘着シートなどを利用する。

(イ) 殺そ剤の利用

園地の隣接する農家同士が共同で広範囲に渡って実施すると効果は高まる。

(10) 雪害対策

仙台管区気象台発表の寒候期予報によると、今年の東北日本海側の降雪量はほぼ平年並みと見込まれているので、自分の園地の積雪量に応じて対策を行う。

ア 根雪前の対策

【苗木・幼木】

- ・主幹や枝を紐などで結束、特に主幹延長上の新梢も支柱に結束する。
- ・雪の沈降力で紐がずれて落ちないように、きつく結束する。

【普通台樹】

- ・雪害を受けそうな枝に支柱を入れるとともに、不要な枝を大枝単位に剪去する。
- ・樹上に雪が積もりにくくなるように、徒長枝は剪去し、切り口に塗布剤を塗る。
- ・裂開の生じている樹は、カスガイやボルトで補強する。

【わい性台樹】

- ・枝の中央部からやや先を枝先が上向きになる程度まで吊り上げる。
- ・不要な下枝などは剪去する。

イ 積雪期間中の対策

【普通台樹】

- ・冠雪による被害防止のため、雪を降ろす。
- ・雪中の枝先は、雪が新しいうちに抜き上げる。
- ・融雪期に入ったら随時見回り、枝を引き上げる。
- ・雪の沈降によって裂開及び折損しそうな枝で不要なものは、早めに剪去する。

【わい性台樹】

- ・枝の掘上げを行う。
- ・下枝部分の雪を踏み固める。

【融雪促進剤の利用】

- ・事前に融雪促進剤を園地に運搬しておく。
- ・2月上旬以降数回にわたり、晴天が数日続く日を選んで融雪促進剤を散布する。

(11) 酸性土壌の改良

酸性土壌を改良する場合は、土壌分析結果に基づき、収穫作業終了後に改良資材を必要量施用する。なお、土壌分析の依頼はJ A全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJ A等で受け付けている。

(12) マメコバチの飼養管理

依然として、マメコバチの巣筒を長年使ったり、巣箱を園地内に放置したままにするなど、管理が不十分な園地が見られる。結実量を安定的に確保するために、きちんと管理し増殖率を高める。そのためには、冬から早春にかけての管理や準備が重要なので適切に行う。

ア 新しい巣筒の準備

巣筒は何年も利用し、筒内に古い繭が溜まるようになるとコナダニなどの天敵による被害が多くなるので、巣筒は3～5年に一度は更新する。

巣筒には内径6～6.5mmのアシガヤを使用し、25～30cmの長さに鋭利な刃物で一本ずつ斜めに切る。その際、出入口近くにアシガヤの節がこないように注意する。

イ コナダニの駆除

コナダニの発生が多い場合は、2～3月頃に筒を割って健全な繭を取り出し、繭の表面についたコナダニや汚れを落とすために、洗浄する。

繭の洗浄は、①浸漬→②こすり洗い→③すすぎ洗いの手順を10分程度で進め、その後、乾燥させる。詳細は合資会社・マメコバチ研究所ホームページ (http://park1.wakwak.com/~mameko-bachi/mite_control.htm) を参照する。

乾燥した繭は小型の菓子箱などに入れ、ポリエチレン袋で包んで、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

ウ 放飼時期調整のための巣箱の冷蔵庫保管

4月上旬頃、筒内でマメコバチが動き始め、カチカチと音がするようになったら、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

3 一般作業

- (1) 園地清掃 (2) 堆肥づくり

